

さいたま市文化財時報

かや 樞りぼーと

第 92 号

令和5年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、地中に「埋蔵」された「文化財」のことで、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料です。さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、「埋蔵文化財包蔵地」（埋蔵文化財の存在が知られている土地）が1,100か所以上確認されています。

埋蔵文化財は、地中から掘り出してしまうと、元に戻すことができないため、埋もれたままの状態でも保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、記録として保存するための「発掘調査」を実施します。今年度2月までに市内で実施された発掘調査は、22件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備に向けて、史跡内の内容を確認することを目的とした学術的な発掘調査を行っています。

今回は、これらの発掘調査のうち、令和5年度に実施された主な調査成果をご紹介します。

泥炭層から縄文時代の木材、 漆塗りの土器などを検出

～国史跡 しんぶくじ 真福寺貝塚の調査～

〈岩槻区〉

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約 1.6 km、岩槻区城南3丁目に所在する遺跡です。昭和 50 年に国の史跡に指定されており、史跡整備に向けて内容確認調査を平成 28 年度から継続して行っています。

令和元年から4年度の4か年にわたる調査では、史跡西側の窪地から谷部にかけて、低地およびその付近の台地縁辺部の活動を明らかにするための調査を行いました。

今年度からは、真福寺貝塚の水辺の活動域にあたる谷部の泥炭層地点の調査を新たに実施しました。調査の結果、縄文時代晩期初頭から中葉にかけての木材を伴う泥炭層が堆積している様相を確認しました。出土した木材は時期により大きさに違いがありました。また、縄文時代以後の古墳時代から奈良時代ごろにも泥炭層の堆積があったことが出土した土師器によって明らかになりました。

縄文時代の泥炭層からは、木材や土器、石器のほか、台地上では朽ちてしまうクミヤトチノミなどの木の実、昆虫の翅も確認されました。そして、木胎漆器や漆塗りの土器といった漆製品も出土しています。



▲縄文晩期の泥炭層に堆積する木材



▲漆塗りの土器検出状況

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

令和5年9月から12月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館（大宮区）、コクーシティ2（大宮区）、さいたま市中央図書館（浦和区）の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。



▲最新出土品展（コクーシティ2）

最新出土品展の開催直前の9月2日には

「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」をさいたま市生涯学習総合センターで開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。参加された方には、令和4年度に実施された発掘調査や、国指定史跡・真福寺貝塚に関する説明などを熱心にお聞きいただきました。

お知らせ

●国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の案内

田島ヶ原サクラソウ自生地（桜区田島・桜草公園内）では、サクラソウが3月下旬ころから咲き始め、4月上旬に見ごろを迎えます。サクラソウの開花期に合わせ、ボランティアによる案内を毎日実施し、自生地の魅力を紹介しています。昨年5月には、田島ヶ原サクラソウ自生地が「未来に残したい草原の里100選」に選定されました。春はサクラソウだけでなく、草原の多様な草花をご覧ください。

また、さいたま市のホームページではサクラソウの開花状況をお知らせしていますので、こちらもご活用ください。

※ボランティアによる案内は3月29日から4月14日の間の10時から15時まで実施。雨天・荒天中止。内容に変更がある場合は市ホームページでお知らせします。

サクラソウの開花状況はこちら ▶



▲サクラソウ

さいたま市文化財時報

樞りぽーと

第92号

令和6年3月25日

《編集・発行》

さいたま市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財保護課

☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

☎048-829-1723 048-829-1989

<https://www.city.saitama.lg.jp/>